

2017年度エコアクション21

環境活動レポート

活動期間 2016年7月～2017年6月

発行 2017年9月8日



環境方針

我々の生活環境をおびやかす気候変動、地下資源の枯渇、核問題、大量生産・大量廃棄など、対処すべき問題は山積であり、このままでは未来の世代にまで負担を強いることになってしまいます。

私たち山田建設株式会社では、建設業の事業活動において環境負荷の低減を図り、未来の世代のため、ムリ・ムダ・ムラのない持続可能な活動を目指します。

- 1 電力・自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に取り組みます。
- 2 建設資材の省資源、廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）の推進に取り組みます。
- 3 水資源使用量の削減に取り組みます。
- 4 化学物質使用量の削減に取り組みます。
- 5 グリーン購入の推進に取り組みます。
- 6 環境に配慮した取組を推進します。
- 7 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

制定 2015年8月17日

山田建設株式会社
代表取締役



組織の概要

●名称及び代表者

山田建設株式会社

代表取締役 山田 孝

●事業の内容 許可業種

土木、とび・土工、舗装、水道施設工事業

山形県知事許可(特-27) 第 400105 号

解体工事業

山形県知事許可(特-29)第 400105 号

建築、大工、屋根、管、タイル・れんが・ブロック鋼構造物、鉄筋、内装仕上、造園工事業

山形県知事許可(般-27)第 400105 号

山形県産業廃棄物収集運搬業

第 0604125172 号

特例浄化槽工事業者

山形県知事(届-18)新第 65 号

屋外広告業

山形県屋外広告業登録第 570 号

●所在地及び連絡先

〒999-6104 山形県最上郡最上町大字本城 396-2

TEL (0233) 43-2168 FAX (0233) 43-2004

Email yamada.inc@onyx.ocn.ne.jp

環境管理責任者 山田 孝

環境事務担当者 青木 憲子

●事業規模

売上高 2 億円

従業員 23 名

延床面積 本社 294 m²、資材倉庫 302 m²の合計 596 m²

対象範囲と対象取組期間

- 認証・登録の対象範囲

山田建設株式会社における全組織・全活動

- 環境活動レポートの対象取組期間

2016年7月1日～2017年6月30日

環境目標

●事業所環境目標		2015年度	2016年度	2017年度
二酸化炭素 排出量	電力消費量	2014年度比1% 削減	2014年度比2% 削減	2014年度比3% 削減
二酸化炭素 排出量	ガソリン消費量	2014年度比1% 削減	2014年度比2% 削減	2014年度比3% 削減
二酸化炭素 排出量	軽油消費量	2014年度比1% 削減	2014年度比2% 削減	2014年度比3% 削減
二酸化炭素 排出量	灯油消費量	2014年度比1% 削減	2014年度比2% 削減	2014年度比3% 削減
二酸化炭素 排出量	上記合計(kg-CO2 換算値)	2014年度比1% 削減	2014年度比2% 削減	2014年度比3% 削減
廃棄物排出 量	一般廃棄物排出量	2014年度比1% 削減	2014年度比2% 削減	2014年度比3% 削減
総排水量	水使用量	2014年度比1% 削減	2014年度比2% 削減	2014年度比3% 削減
グリーン購 入	グリーン購入件数	2014年度比1件 以上増加	2014年度比2件 以上増加	2014年度比3件 以上増加
●建設現場環境目標		2015年度	2016年度	2017年度
二酸化炭素 排出量	ガソリン消費量	2014年度比1% 削減	2014年度比2% 削減	2014年度比3% 削減
二酸化炭素 排出量	軽油消費量	2014年度比1% 削減	2014年度比2% 削減	2014年度比3% 削減
二酸化炭素 排出量	灯油消費量	2014年度比1% 削減	2014年度比2% 削減	2014年度比3% 削減
二酸化炭素 排出量	上記合計(kg-CO2 換算値)	2014年度比1% 削減	2014年度比2% 削減	2014年度比3% 削減
廃棄物排出 量	産業廃棄物排出量	2014年度比1% 削減	2014年度比2% 削減	2014年度比3% 削減
化学物質排 出量	化学物質使用量	2014年度比1% 削減	2014年度比2% 削減	2014年度比3% 削減
社会貢献	環境への配慮した 活動件数	2014年度比1件 以上増加	2014年度比2件 以上増加	2014年度比3件 以上増加

環境目標の実績

●事業所環境目標の実績 7月～6月		単位	2016年度 計画値	2016年度 実績値	数値差	増減 比率	達成 状況
二酸化炭素排出量	電力消費量	kwh	7,008	6,728	▲280	96.0%	○
二酸化炭素排出量	ガソリン消費量	p	10.641	9.826	▲0.815	92.3%	○
二酸化炭素排出量	軽油消費量	P	73.942	5.948	▲97.994	8.0%	○
二酸化炭素排出量	灯油消費量	ℓ	1,175	1,211	36	103.1%	×
二酸化炭素排出量	上記合計	kg-CO2	20,564.63	16,915.81	▲3,648.82	82.3%	○
廃棄物排出量	一般廃棄物排出量	kg	643.0	438.9	▲204.1	68.3%	○
総排水量	水使用量	m3	50	44	▲6	88.0%	○
グリーン購入	グリーン購入件数	件	14	49	35	350.0%	○
●建設現場環境目標の実績 7月～6月		単位	2016年度 計画値	2016年度 実績値	数値差	増減 比率	達成 状況
二酸化炭素排出量	ガソリン消費量	P	27.665	32.638	4.973	118.0%	×
二酸化炭素排出量	軽油消費量	P	1266.271	515.410	▲750.861	40.7%	○
二酸化炭素排出量	灯油消費量	P	31.514	1.899	▲29.615	6.0%	○
二酸化炭素排出量	上記合計	kg-CO2	175,851	369,009	193,158	209.8%	×
廃棄物排出量	産業廃棄物排出量	t	54.00	16.18	▲37.82	30.5%	○
化学物質排出量	化学物質使用量	kg	56	1	▲55	1.8%	○
社会貢献	環境への配慮した活動件数	件	3	2	▲1	66.7%	×

●事業所環境目標の評価 7月～6月

二酸化炭素 電力消費量 計画値比較では達成できたが前年比だと達成できず。
排出量 PHEV 導入が原因。この理由なら増加してもよしとしたい。

二酸化炭素 ガソリン消費 計画値比較では達成できたが前年比だと達成できず。
排出量 量 PHEV 導入が原因。EV 化を推進したい。

二酸化炭素 軽油消費量 車両使用回数減少のため達成できた。
排出量 効率のよい行動を徹底したい。

二酸化炭素 灯油消費量 計画値比較では達成できなかったが前年からは約半減した。
排出量 ペレットストーブの導入がきている様子。

廃棄物排出 一般廃棄物排 計画値及び前年比ともに達成。
出量 今後は廃プラと紙くずの分別リサイクルを検討したい。

総排水量 水使用量 計画値及び前年比ともに達成。
今後は設備更新による対策を検討したい。

グリーン購 グリーン購入 計画値及び前年比ともに達成。
入 件数 この調子でどんどん増やしていきたい。

●建設現場環境目標の評価 7月～6月

二酸化炭素 ガソリン消費 新たな評価尺度でも達成できなかった。
排出量 量 イニシャルCとランニングCを絡めて車両購入時は判断したい。

二酸化炭素 軽油消費量 前年比総量比でも達成できた。
排出量 効率のいい運転教育を何度もやっていきたい。

二酸化炭素 灯油消費量 暖房地域の現場が少なかったため達成できた。
排出量 今後もこのまま様子をみていきたい。

廃棄物排出 産業廃棄物排 産廃発生現場が少なかったため達成できた。
出量 今後もこのまま様子をみていきたい。

化学物質排 化学物質使用 購入数量がすくなかったため達成できた。
出量 量 今後もこのまま様子をみていきたい。

社会貢献 環境への配慮 達成もできず、内容も明確になっておらず、要見直し。
した活動件数

※二酸化炭素排出量(kg-CO₂)への換算方法は下記のとおり。

- ・ 電力消費量 kwh×排出係数 0.591(2013 年度東北電力)
- ・ ガソリン消費量 ℓ ×排出係数 0.0671×単位発熱量 34.6MJ/ℓ
- ・ 軽油消費量 ℓ ×排出係数 0.0686×単位発熱量 37.7MJ/ℓ
- ・ 灯油消費量 ℓ ×排出係数 0.0679×単位発熱量 36.7MJ/ℓ



1. 前回より小さい容量のバッテリーと照明 2. 暖房負荷を低減させるハニカムサーモスクリーンを導入 3. ペレットストーブの導入 4. バイオグリースへ変更

環境活動計画

以下のとおり、環境活動目標を策定し、取組状況の評価を○△×にて行った。○は十分、△は不十分、×は未実施とした。

- 事業所電力消費量削減
 - OA 機器待機電力削減
 - 照明の不要時消灯
 - トイレの暖房便座のタイマー化
- 事業所ガソリン消費量削減
 - 単一業務での車両利用の低減
 - 自転車の利用
 - ×エコドライブ研修会の実施
- 事業所軽油消費量削減
 - 単一業務での車両利用の低減
 - 自転車の利用
 - ×エコドライブ研修会の実施
- 事業所灯油消費量削減
 - 休日のタイマー暖房の禁止
 - △設定温度の見直し
 - バイオマスストーブの導入
 - 寒冷地エアコンの導入
- 事業所一般廃棄物排出量削減
 - 漏れのなく排出量を測定
 - ×リサイクルの推進
- 事業所水使用量削減
 - 水サーバーの有効利用
 - トイレのタンク内水量低減
- 事業所グリーン購入推進
 - 購入前の商品の確認
- 建設現場ガソリン消費量削減
 - △機材のアイドリングストップ
 - 充電式機材の利用
- 建設現場軽油消費量削減
 - 効率のよい重機作業の実施
 - 乗り合い通勤の実施
 - エコドライブ研修会の実施
 - エコワーク研修会の実施
- 建設現場灯油消費量削減
 - △暖房室にあった暖房器具の選定
- 建設現場産業廃棄物排出量削減
 - 購入資材の数量は余分なものが発生しないよう検討
 - △必要のない消費行動は控える
- 建設現場化学物質使用量削減
 - 必要最低限の量を購入し、保管在庫も積極的に使用
- 建設現場環境に配慮した活動の推進
 - ×各現場に見合った取組を検討し実行

以上の取組状況の評価を踏まえ、次年度以降の取組内容は以下のものを重点的に行う。

- 1 エコドライブ及びエコワーク研修会の反復実施
- 2 重機、車両、機材等の更新時に燃料消費量の少ないものの選定
- 3 バッテリーや充電式機材の充実
- 4 リサイクル活動の充実

環境関連法規等の遵守の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社が遵守すべき主な環境関連法規等は以下のとおり。

環境関連法規等の名称	遵守すべき内容	遵守状況
廃棄物処理法	委託基準、委託契約、マニフェスト交付、交付状況の報告、保管場所掲示板設置	○
リサイクル法	再生資源利用計画書・実施書並びに促進計画書・実施書の作成	○
排出ガス対策型建設機械普及促進規定	排ガス対策機械の使用	○
道路交通法	積載基準の遵守	○

2017年8月1日付において、環境関連法規等の遵守状況を確認したが、違反状態はみられなかった。また過去3年間、関係当局からの違反等の指摘や指導及び外部からの訴訟はなかった。

代表者による全体評価と見直し結果

●環境経営システムの有効性の評価

昨年の反省から、変動費とみられるものは、売上げ比率も用いて評価することとなり、適切に評価され、より有効になったと評価できる。しかし、昨年同様環境への配慮した活動が一体なんなのか明確になっていないので、見直しを掛けたい。

●環境経営システム変更の必要性

環境方針は変更の必要性はなし。環境目標のうち一般廃棄物排出量は、リサイクル可能なものを可燃ゴミとして排出しているのでリサイクル率をもって評価できるよう変更していきたい。環境活動計画については、次年度に見直しをかける。環境経営システムは前述のとおりシンプルにムダなく機能し、的確に評価できるように適宜見直す必要がある。

●代表者による総括

前年の反省を活かし、変動費とみなされるものは、新たな売上比率ポイントとして評価できるようにシステムを変更しました。工事量増減にかかわらず、適切に評価できるようになったと思っています。今回の目標達成状況においては、大目玉である現場の軽油消費量がクリアできてほっとしています。ただし、これだという打開策がみえないので、もやもや感が残ったままです。

今期においては、新たな設備を導入中でプチオフグリッドに挑んでいます。

また今回の結果を踏まえ、カーボンフリー企業になるにはどうしたらいいのかよくよく検討してみたいと思っています。

当社を選んでいただけることが COOLCHOICE になれますように。